

## 議長記者会見（第18回）会見録

日時：平成27年3月18日（水）

午後3時00分～

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う吉崎議長（右）と米田副議長（左）

### 1 発表事項（吉崎議長）

#### ○ 今定例会をふりかえって

（平成27年度当初予算の議決について）

平成27年度の当初予算が本日議決されました。ここ近年にない大型の執行部からの提出案件であったと思っていますし、5,438億円というのは、平成26年度補正があり今年度の当初と合わせれば、昨年度の当初予算と比べて7.5%の増額ということ、提出案件の中で実質県税が1,700億円を超えている予算であり、14.3%も前年度と比べてアップしているということは、やはり経済が地方でも進展していて新たな投資も見えている中での実質県税の伸びが予算として提案されたということです。また、国の方もア

ベノミクスの3本の矢で自公政権になって国が安定してきたことによって、経済団体も先行投資していく姿が少しずつ見えてきているし、地方創生という形の中でアベノミクス効果を地方にも行き渡らせる政策が企業の皆さんにとって先行投資をしていく姿が見えてきているという表れで、今県当初予算を組まれていると思います。県議会としても歓迎すべきことであります。今定例会中の3月14日に、石川県民にとっての北回り新幹線と言われてから50年。中間ではありますが、金沢開業が起爆剤の一つになり、金沢だけではなく、能登や加賀に波及効果が生まれるような施策を県の執行部がここ近年取り組まれている姿が、補正予算や今年度当初予算に組み込まれ、大型予算となっていると思っています。県議会としても歓迎するものだと思います。そのことの議決だったということで、県民の声に答えていくというための情報発信であったと思います。

(論戦：観光戦略について)

その中での論戦は、観光振興ということでは、今月末からNHK連続テレビ小説「まれ」が放送され、国民の期待度が大きい。期間は半年ではありますが、効果を期待したいと思っています。

白山白川郷ホワイトロード、通行料が半額になるということではありますが、今後の石川県の観光誘客のことを考えれば、当然、無料化を視野に入れて執行部と丁々発止議論していくことが大事であろうと考えます。

また、東京ではアンテナショップが新たに銀座でオープンになりました。お客さんの評価も高く、東京での発信基地として機能を十分発揮され、適切な判断だったと思います。私も周辺にある10数件の他県のアンテナショップを回ってみました。十分に石川県の魅力を発信できるアンテナショップだと感じています。福井県はユニークなアイデアとして、インターネットで消費者と生産者との顔が見える仕組みを作っており、石川県も発信力向上のため更に工夫していくことが大事だろうと思います。

(論戦：地方創生（人口減少対策、長期構想）について)

地方創生ですが、いよいよ石川県も人口減少の時代に入り、特に能登や白山市の旧5か村あたりの人口減少が顕著にみられるので、観光誘客などで長期構想に立って、光の当たりにくい所に光を当てるということが一番の行政の課題でありますので、能登や白山市の旧5か村の振興策をこれからも示していくことが重要であります。

(論戦：全国植樹祭について)

全国植樹祭が5月17日(日)と、目の前に迫っています。一過性で終わらせてしまうとせっかくの植樹祭の意味が薄れてしまいますので、契機として新幹線を利用してもらいながら、リピーターにつなげる誘客の仕組みを構築することが重要であるという論争がなされました。

(論戦：「いしかわ文化振興条例」について)

条例案について執行部から提出されていましたが、「いしかわ文化振興条例」の基金120億円あまりを積んだ上での文化振興というのは他県にはない着眼点があり、石川県の加賀藩からの文化を掘り起こすという意味でも、議会として評価をしたいと感じました。

(意見書について)

意見書が6件出され、2件可決されました。

#### ○北陸新幹線金沢開業を迎えて

先程来のとおり、40数年来の課題であった北陸新幹線の金沢開業を迎えるにあたっての論戦が多かったと思うし、3月14日を迎えたわけではありますが、東京からきたレールを敦賀・大阪までどう引いていくのかが議論になると思います。福井県も4月に統一選挙、知事選挙がありますから、選挙が終わってから、敦賀以西をどうするのか。福井県も論戦を、また石川県も提言していくことが大事であります。新幹線開業によって、小松空港の搭乗率をどうするのか、新幹線で浮かれていると空港行政で心配な点が出てきますから、空港行政を行っていくことが重要だと思っております。特に富山県議会議長の高平議長は、富山空港は小松空港以上に新幹線開業の影響が出ると心配されていましたし、石川県も同じだろうと思っています。北陸圏の連携やセントレアとの連携なども見極めながら、空港行政を海外に展開するためにもしっかりと提言していくことがこれからの大事な課題であると思っていますし、行政、議会がしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

#### ○その他（今任期中の主な動きについて）

(予算特別委員会の常任委員会化、県議会だよりの発刊)

その他ということで、本会議場でも発言させていただきましたが、4年間の主な動きとしていろいろとありました。予算特別委員会を予算委員会に常任委員会化し、内容を充実することができたこと、3年前から議会の発信力を高める一環として県議会だよりを発刊し、県政の諸課題について議会目線で県民のみなさんにお知らせできるようになったことが開かれた議会として前進したことであります。

(現職議員の米光正次氏が急逝)

われわれの同志でありました米光正次氏が、2年前の平成25年5月2日に急逝されました。元気で豪快な米光さんでありました。実直で歯に衣着せぬ形で物言いをして、県議会としても貴重な人材を失い、残念であります。ご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

ます。

(韓国・全羅北道議会との「友好交流に関する合意書」に調印)

韓国・全羅北道議会との友好交流に関する合意書が締結されたことですが、日韓間には竹島やいろいろな課題があり、韓国から来るお客様の数については、やや低迷していると聞いています。国同士は諸課題がありますが、地方同士はこれからもより多くの交流を持ち、実りあるものにしたいと思っていますし、今春、石川県立歴史博物館がリニューアルされ、秋には全羅北道議会の皆さんが来られ、韓国の歴史的文化財をみていただく機会がありますので、地方と地方の交流をこれからもより実りあるものにしていくことが大事なことであると思っています。

(「ふれあい親子県議会教室」の開催)

新たに、ふれあい親子県議会教室が開催されました。県民に開かれた県議会という意味では、とても有意義なものであり、参加した親御さんの声を聞いても評価が高かったです。教室の中で、代表者が意見発表されていましたが、小学生の目線で県議会をしっかりと捉え意見発表されていたことに、私も感激しました。静岡県で開催されている教室の評判を聞いている以上に、石川県は成果があったし、これからも続けていくことが県議会をより多くの方に知っていただくために、有意義なものであったと思います。これから新たに誕生する県議の皆さんにも継続していただきたいと思っています。

(知事選・市長選への出馬のための議員辞職が多くあった)

われわれの同志であった議員の辞職ということで、例えば、知事選挙に川さん、市長選挙に下沢さん、石坂さん、山田さんが出馬されました。議長として同志の議員辞職願を受けとることは痛恨極まりないものがあつたと思いますが、次のステージへ向けて夢を広げていただくためにも敢えて受け取らせていただきました。結果はいろんな形があつたと思います。それを受け、補欠選挙で新たな議員のみなさんが参加され、新たな息吹が入ってきたと思っています。

(次期県議選に立候補をしない旨表明している議員について)

4月3日の告示日には、現在42名の県議のうち6名が不出馬を表明しているということですが、残り36名についてはチャレンジしていくということですので、全員の当選を期待しています。われわれ地元は県下でも激戦区ですので、議長としても油断せずに県議戦に挑みたいと思います。皆様方のご指導・ご鞭撻・ご理解をお願いしたいと思います。時間に限りがありますので、私の方からは以上とさせていただきます。

何か質問があればどうぞ。

## 2. 質疑応答

記者

議会改革を考えると、こんなことができたなと思うことは。

吉崎議長

開かれた議会に取り組むことが大事で、投票率の低下やいろいろな課題がある中で、県民の皆さんに不信感をもたれることもあったり、不透明な部分があると思いますが、県民の皆さんに見ていただく、知っていただく県議会として進めていくこと、また、議員自身も襟を正して県民の声を県政の中で発言し、二元代表制の中で、県議会議員も県民の代表でありますのでしっかりと押さえていかなければならないという思いで、1年間ではあります但し今日まで、諸先輩方の議長、副議長のみなさんも同じ思いで取り組んでこられたと思います。

記者

初めて政治倫理審査会が開かれたということで、改めて議長としてどういった思いですか。

吉崎議長

審査会を対応する窓口ができて初めての政治倫理審査会が開かれました。5回あまり開催されたと聞いております。私は内容等について詳しく承知はしていませんが、議員数8分の1以上の申請によって開催されるということです。議題として取り上げる内容は精査しなければいけない部分があると思うし、要綱や要領については次回の政倫審での対応を見ながら、よりわかりやすいものにしなければいけないのではと思います。インターネット上に掲載されていること全てを取り上げるということは、精査しないうちは誹謗中傷などがあり、いろんな書き込みがありますので、それを8分の1以上の議員の申請によって全て取り上げるのかということについて、新たに当選された議員の皆さんで慎重に要綱や要領の見直しや対応について検討していただきたいと思っております。私たちにとってもわかりにくい部分があったかなと思います。

記者

先ほども地方議会について話がありましたが、他県ではありますが政務活動費を巡って全国的に注目を集めることがありましたが、これを受けて石川県議会でも見直すべきもの、検討すべきものなどはありますか。

吉崎議長

それは議員の倫理でありますから、不信感をもたれるような行動があってはいけないわけで、県民の税をいただいて執行しているわけでありますから、そこはきちんとわかりやすい形でオープンにしていくことは大事であると思っています。ただ、オープンの仕方の中で、見方によっては穿ったというか、重箱の隅をつつくような形があってはいけないのであって、開示できるものは開示して、適切な対応をとっていかなければならないと思っています。先ほどの政倫審と同じで、どこまでが真実でどこまでが虚偽なのか見極めがつかない部分がありましたので、整理していくことが大事であります。政務調査費から政務活動費へと名称が変わり、内容が幅広くなり、それは当然、税を使わせていただく中での政務活動、調査を行うわけでありますので、そこはきちんと対応していかなければならないと思っています。

記者

議員個人の倫理観として、きちんと疑念を持たれないことが大事であるということですか？

吉崎議長

まずそこが基本であると思っています。

記者

執行部と議会の関係で、よく執行部から出てきた物を修正せずに原案通り可決するのが多すぎてきちんとチェックしているのかという言い方をされますけれども、執行部と対峙の仕方と言うと、現状の何が足りないとか、逆に見えないところできちんとしているということはあるですか。

吉崎議長

先ほども申し上げましたとおり、執行部代表は県民から選出された知事であり、我々も県民の皆さんに選挙という形で負託を受けて、二元代表制の原点できちんに対応していくことは当然大事なことだと思います。

物の見方で、それぞれの立場で違いはありますが、私個人にすればいつも49対51であり、100人いてもどこが51でどこが49なのか、適切な賛同をいただける形を求めていきたい。全体としてまとめながら、議会としても物事を言うときはきちんとと言うし、執行部に誤りがあれば議会としての提言をしていかなければならないと思っております。

記者

執行部とは常に対峙はできているということですか。

吉崎議長

私はしっかりやっていますと思います。

記者

委員会審議などいろんな場面があげられますが、どんな是々非々ができているなと思いますか。

吉崎議長

明快な答弁を得るためには事前に質疑要旨を出すべきだと思いますが、ときどきによっては質疑要旨にない部分の答弁を求めることは議会として当然だと思っています。

委員会でも説明に応じて質問をしているわけでありますから、執行部でしっかりと対応していただきたい。

記者

議長の任期について、1年で交代することが多いと思いますが、その点は、今のお立場でどうですか。

吉崎議長

私は自動失職でありますから。議会の運営上で申し合わせがあるならば、直すべきことは直せばいいし、そのままでもいいという意見が多ければそのままでもいい。

若い方と我々の世代との間の議員さんがちょっと少ないことがありますから、新たに当選された方々で、どういった形が良いか審議して対応していただきたい。先輩方の中には、半年や10ヶ月といった対応をとられた方もいらっしゃいますから、議長任期が2年になるかもしれないし、ときどきの適切な対応があると思います。

記者

ご自身は短いという印象はありますか。

吉崎議長

やりはじめは早く終わりたい、やってみたら1年経ったかなと。充実感があります。勉強もさせていただきました。全国議長会において半島振興会の会長として、3月で期限切れとなる法延長について、党派のみなさん方、国会の先生方と意見交換をして、若い方々が定住できる方法での指針が示されて、自分の発言したことを盛り込んでいただけたこと

もありました。議論で物足りないところを感じましたので、「生まれ育った若者が定住できる施策」という文言を盛り込ませていただきたいと話をして、大学の先生にもきちんと半島振興法として方向付けしていくような条例を制定していきたくと話をしていただきました。

記者

副議長は議会を振り返っていかがですか。

米田副議長

北陸新幹線がようやく開業したと。各自治体にいろんなことをお願いしながら石川県が元気になるため、自治体も石川県も頑張ってきた。それがいよいよどう実を結んでいくのか、効果が生まれるのか、それが一番気になっています。もともとPRすることが大事だと思っていましたし、NHKテレビの「まれ」や、映画の「さいはてにて」などがあり、スポーツでは競歩の新記録や、星稜高校のサッカー部全国優勝など、いろんな面から石川県がPRされてきたと思います。金沢は全国的に印象があり有名であるが、石川県はPRできてきたのかなと思います。それが、今しっかりと準備してきたものが、石川県といえどここだねと分かっていただけるようになったのではないかと感じます。

執行部との関係について、議員条例や施策提案について力を入れていきたいと思いましたが、たまたま議員条例を制定してきましたが、先進事例があったからで、石川県独自の条例をどう作っていった方が石川県のためになるのか、研究して進めていかなければならないと思いました。これからも引き続き政策提案しながら議員条例を作っていきたいという思いであります。